

⑤ 坪内忠太 著

『にほん語おもしろい』

(新講社)

日本人であれば日本語を毎日当たり前のように使っているのに、特に深く考えることもないのではないのでしょうか。しかし、いざとなると答えに困ってしまう例はよくあるものです。例えば本書に取り上げられている長崎チャンポンの「チャンポン」です。あまりにも日常的に使っているのに、いざ「チャンポンって何?」と聞かれると、答えに窮してしまいます。全247ページの中に295項目が並べられています。難解な説明ではなく、誰にでも理解できるように簡潔に解説されているので、気軽に読んでみてください。

810.4-Tsu (T.F.)

⑦ デイビッド・A・セイン、岩下 宣子 著

『英語で知る日本のマナー：
NHK英語でしゃべらナイト
=Learning about Japanese
etiquette in English』

(主婦の友社)

日本のマナーや習慣、風習は私たち日本人にとっても難しく、詳しく知らないままの人も少なくないでしょう。それを外国人に説明するのはより困難なことです。本書では、日本のマナーについて英語と日本語で丁寧に解説しており、写真やイラスト付きでわかりやすく学習できます。外国人に英語で説明する時役立つのはもちろんのこと、日本人が間違いやすいマナーを再確認する為にも役立つ一冊です。本書を手におさらいしてみたいかでしょうか。

385.9-Tha (Y.Y.)



⑥ 蛇蔵、海野凧子 著

『日本人の知らない日本語:なるほど×
爆笑!の日本語“再発見”コミックエッセイ』

(メディアファクトリー)

日本語学校の教師である著者が出会った外国人学生とのやりとりをまとめた本。日本語を母国語としないからこそ不思議に思うことや疑問点などを中心に、時に面白く時にはとさせられるエピソードが紹介されています。

どの言語であっても、言語を学ぶということは難しいものです。その壁に真正面から立ち向かおうとするからこそ見えてくる「不思議」は、言語や文化を学ぶ楽しさと面白さを教えてくれます。日本語や日本の良さを改めて発見できる一冊です。

810.4-Heb (Y.Y.)

⑧ 青田恵一 著

『たたかうお店のバイブル13冊』

(八潮出版社)

筆者は書店コンサルタントの青田恵一氏。大手書店で活躍後に独立、意欲的な執筆活動を展開中。

「日本初の小売本の本格的書評集」「従来の常識はもう通用しない」「いま小売に必要なものとは?」「500冊以上から選び抜かれた13冊に勝ち残るための現代小売業の精神、原則、ノウハウが潜む」とキャッチコピーが目を惹きます。

本書は小売業の達人たちの心意気と販売ノウハウが盛り込まれた小売本13冊の書評集で、日経新聞のWeb「日経ShopBiz」で好評の連載記事でした。「売場の“思想”が客を集める」とサブタイトルにありますが、各々売り手の哲学的な商売の姿勢を、青田氏がわかりやすく解説しています。消費者側の私たちにも興味深く読める一冊です。

670-Aot (Y.S.)